



村のつづき

凍みもちを村の特産品に

「ごんぼっぱ」の栽培法 生産者が学習会

「ごんぼっぱ」栽培法学習会は5月28日、大川の細川太寿さん宅で行われ、「ごんぼっぱ」を栽培する農家13人が参加し、栽培方法などを学びました。

この学習会は、村が凍みもちを新たな特産品にしようと、その材料である「オヤマボクチ」通称「ごんぼっぱ」を確保しようとしたものです。今回の学習会に参加したのは、村からの栽培者募集の呼びかけに応じた13の農家。

この日参加者らは、細川さん宅の畑を見学しながら「ごんぼっぱ」の特徴や、栽培上の注意など



▲「ごんぼっぱ」について説明を聞く参加者
(中央で説明しているのが細川さん)

を学びました。

8月には今年春に種を

まいた「ごんぼっぱ」の苗が各農家へ配られ、それぞれ畑に定植されます。収穫は来年の6月末から9月頃まで。収穫された葉は、凍みもちの材料として村内で凍みもちを作っている団体や個人などに販売される予定です。

いいたてホーム増築工事安全祈願祭

特養・ショート合わせて100床に

特別養護老人ホームいいたてホーム増築工事に伴う安全祈願祭は、7月2日増築予定地で行われ、工事の関係者約30人が出席し、工事の無事を祈願しました。

この工事は、国・県の老人福祉施設整備事業の補助を受け、総工費約7億円をかけて現在の建物の西側に新たな入所施設が増築されるもので、この建物が完成すると、いいたてホームは今あるベッド数を含め、特養80床、ショートステイ20床となり、合わせて100床規模の施設になります。

この日の安全祈願祭では神事が行われ、(株)建築事務所陽田秀夫所長、いいたて福祉会理事長(村長)、庄司建設(株)庄司公正社長らが鍬入れ等を



▲鍬入れを行う村長

行い、関係者らが玉串を奉奠し、工事中の無事故と施設の無事完成を祈願しました。

工事概要は次のとおり。

特別養護老人ホーム いいたてホーム増築工事

増床数 特養：30床
ショートステイ：10床
完全個室・トイレ付
鉄骨造 1部2階建
面積：1,988㎡
工期：平成15年6月17日から平成16年3月25日。
平成16年4月供用開始予定。

村に新しい特産品誕生

本格そば焼酎「山中郷」お披露目

村が特産品として開発をすすめていた本格そば焼酎「山中郷」がこのほど完成し、6月26日にス

ターキハウスいいたてでお披露目会が開かれました。

「山中郷」は、転作に



▲お披露目会で完成を祝う関係者たち

より、村内にそば生産者が多くなり、そばの生産量が増えてきたことから、そばを特産品に結びつけようと開発がすすめられたもので、原料には飯館産のそばを100%使用した本格そば焼酎です。

この日のお披露目会には、村や議会、商工会、JAそうま、いいたてそば生産加工組合、そして村内の酒販売店の代表ら20人が出席し、「山中郷」開発までの経緯の説明や、名付け親である佐藤博道さん（深谷）への記念品の贈呈、山中郷の試飲などが行われました。

会では、村長から「おこし酒以降お酒の特産品がなかったが、今回山中郷という素晴らしいものができたことをとても嬉



▲本格そば焼酎「山中郷」

山中郷の名前は、465点の応募の中から決定されました。「山中郷」の意味は、元禄10年以来の村の古地名。ラベルの文字は、二宮仕法の指導者富田高慶の字。背景の絵は、橋本太さん（伊丹沢）作の絵を使っています。

乾杯をし、出席者らはできたての山中郷を試飲しました。

試飲した出席者からは「ほのかに香るそばの香りがいい」「まろやかであっさりとしていて、とても呑みやすい」「お酒の苦手な方にもすすめる」などと感想が話され、山中郷の評判は上々のようでした。

その後、いいたてそば生産加工組合の木幡良一代表（伊丹沢）の音頭で

10本が贈られました。



▲賞状と記念品を受ける名付け親の佐藤さん

山中郷は6月15日から限定2、300本で予約を開始しましたが、予約開始後間もなく完売となるほどの人気。担当の産業課によると、予約したお客の手元には7月8日ごろから届けられる予定だそうです。

「やるきつながりプラン」策定開始

住民に「マデイライフ」の理念説明



▲全体説明会でのワークショップのようす

第5次総やるきつながりプラン全体説明会は、6月6日に村公民館で行われ、5次総の基本理念や計画策定の方法などが住民に対して説明されま

した。
今回の説明会には、各行政区で選ばれた計画策定委員ら160人あまりが参加し、村から計画の基本理念となる「マデイ

ライフ」や、計画への助成の仕組みについて説明がされた後、村づくりアドバイザーザー糸長浩司先生の指導のもと、ワークショップを実際に行い計画策定の方法を体験しました。
ワークショップでは、行政区ごとに地区の魅力や課題などを出し合い、参加者は計画策定の感触をつかんでいたようでした。



▲20行政区でもそれぞれ策定が始まりました（写真は藤平行政区）

地区説明会も開催

各地区でワークショップに熱

第5次総合振興計画策定にかかる地域説明会も6月19日から27日までの日程で行われました。

これは、第5次総の計画策定にあたり、その理念と、地域間の枠を越えた広域的な計画となる「やるきつながりプラン」の内容を地域住民に説明し、理解を求め、地

区でのスムーズな話し合いのお手伝いをしようといわれたものです。

初日となった19日は、佐須、関根・松塚2つの行政区で説明会が行われました。このうち、関根・松塚行政区では、地域の策定委員や村の職員、コミュニティ担当職員らあわせて15人が出席し、5次総の理念、今後の策定の手法となる地域ワークショップの進め方等について説明が行われました。説明終了後は、早速地元策定委員らが先に行われた全体説明会に続きワークショップを行い、地区の魅力や課題、将来像について様々な意見を出し合っていました。今回策定された計画は、8月21日に開催される中間報告会でそれぞれ発表される予定です。